

視 察 報 告 書

1 視察年月日

平成30年7月18日から7月20日まで

2 視察場所

平成30年7月18日（水）福岡県行橋市役所

平成30年7月19日（木）山口県下関市役所

平成30年7月20日（金）福岡県春日市役所

3 視察事項

行橋市

・行橋市図書館等複合施設整備事業について

下関市

・次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について

春日市

・コミュニティ・スクールについて

4 視察参加者（7名）

山野井 隆、佐藤 隆治、入江 洋一、吉田 宏、

細谷 典男、竹原 大蔵、関川 翔

5 視察行程

別紙のとおり

6 視察報告

別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 入江 洋一 殿

平成30年8月17日

取手市議会会派創生会代表者 山野井 隆 ⑩

取手市議会会派創生会代表 山野井 隆 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 竹原大蔵

1 視察日

平成30年7月18日(水)

2 視察先

福岡県行橋市役所

3 調査項目

行橋市図書館等複合施設整備事業の取り組みについて

4 視察内容

行橋駅東口周辺に人の往来を取り戻し、地域一体となってまちを活性化するための牽引役として旧ミラモーレ(結婚式場)跡地を活用。何度も訪れたい空間を創出し、人の往来をまちに波及させるしかけをつくることを事業目的とする。

テーマは、①子どもから大人・高齢者が集い、学び憩える交流空間づくり、②地域活性化のため人の交流・往来を盛んにする施設づくりとしており、整備方針を踏まえ、「図書館を中心とした拠点施設(赤レンガ館等を含む一体的活用)」を整備することとしている。

平成28年7月22日に実施方針等の公表。平成32年4月から供用開始を予定。

事業予定地は行橋駅前にあり、旧ミラモーレ跡地(3,208㎡・現状更地)、赤レンガ館(448.80㎡・県指定文化財)、駐車場用地(3,386.79㎡・現状更地)。

施設の主な特徴として、①オーソドックスな空間とカジュアルな空間が調和された図書館、②多くの本が読める空間と体を使って遊べる空間を併せ持つ児童開架エリア、③多種多様な市民ニーズに応えるイベント空間、④赤レンガ館、駐車場との一体的活用、⑤「まちなか図書館(案)」の形成等、地域との連携。

図書館は、蔵書30万冊(一般開架15万冊、児童開架5万冊、保存書庫10万冊)。図書の貸し出しだけでなく、滞在型利用ができるように図書資料を充実させ、各種イベントを実施するなど、子どもから大人・高齢者が集い、学び憩える交流空間づくりを見据えている。

PFI事業。全体事業費55億円/運営維持管理費25億円(15年間総額)、設計・建設・用地費30億円/市費4.4億円、起債12.1億円、国補助13.5億円。社会資本整備総合交付金事業⇒都市再生整備計画事業(補助率40%)⇒都市再構築戦略事業(補助率50%)(立地適正化計画策定が条件)。

事業者は、自らの提案により、市が要求する諸室・機能以外の自主運営事業を実施可能。実施に伴い、利用者から料金を徴収し、自らの収入とすることができる。市としては、学習塾、各種教室（英会話等）、フィットネスクラブ、起業支援情報発信ブース等の地域活性化や利便性向上に寄与する提案を期待しているものの、一度目の事業応募者はなし。予算が少なかったことが理由。

駅前開発はこれからの取手市にも深く関係する。実施方針を策定し供用開始まで数年かかるため担当部署の職員の配置については配慮すべき課題。

以上 図書館等複合施設整備事業先進地福岡県行橋市の視察報告とします。

取手市議会会派創生会代表 山野井 隆 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 関川 翔

- 1 視察日
平成30年7月19日（木）
- 2 視察先
山口県下関市役所
- 3 調査項目
次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について
- 4 視察内容

下関市の概要

下関市は、平成17年2月13日「自然と歴史と人が織りなす交流都市」をまちづくりの基本理念として、旧下関市と旧豊浦郡4町の対等合併により新たに設置された、人口27万人を擁する県下最大の都市である。

昭和45年6月の関窯フェリーの就航、昭和48年11月の関門橋の開通、そして昭和49年7月には中国縦貫自動車道の供用開始、さらに昭和50年3月の国鉄山陽新幹線の開通など、わが国の主要な陸上交通の幹線が集中し、陸海交通の結節点として、またわが国屈指の港湾水産都市として発展を続けている。

「ふくふくこども館」について

1. 施設の目的

次代を担う子どもたちを多世代で育み、もって子どもの健全な育成と子育てをしている家庭の支援を図る。

2. 施設の概要

- | | |
|-------|--|
| ①名称 | ふくふくこども館 |
| ②構造 | 鉄骨造 |
| ③面積 | 3階フロア全体
・プレイランド
・交流スペース
・多目的室
・こども一時預かり室
・相談室 |
| ④運営形態 | 指定管理 |



指定管理者：下関こども未来創造ネット（共同事業体）

⑤使用料（利用料金）

・多目的室

区分	使用料（1時間につき）		
	全面	大	小
平日	1,000円	600円	400円
土、日、休日	1,200円	700円	500円

・こども一時預かり室

区分	使用料（1人1時間につき）
平日	500円
土、日、祝日	600円

3. 利用状況

①来館者数

	来館者数	内プレイランド	市内	市外
H26	249,940	165,913	72.9%	27.1%
H27	186,779	137,611	69.8%	30.2%
H28	186,629	138,709	69.3%	30.7%
H29	203,865	122,583	67.8%	32.2%

②こども一時預かり利用状況

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳以上	合計
H26	134	229	212	166	197	938
H27	112	250	193	176	174	905
H28	115	324	229	183	157	1,008
H29	70	316	307	145	201	1,039

③多目的室

	全面		大		小		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
H26	69	8,120	51	1,544	46	830	166	10,494
H27	129	8,508	57	1,683	63	1,193	249	11,384
H28	107	7,733	29	723	37	715	173	9,171
H29	105	7,065	30	670	35	439	170	8,174

④相談件数

	巡回	個別等	合計
H26	503	78	581
H27	593	126	719
H28	404	66	470
H29	259	219	478

4. 事業概要

・建設経費 約 15 億円

(1)設計・監理	約	47 百万円
(2)工事	約	388 百万円
(3)購入	約	765 百万円
(4)展示	約	347 百万円
(5)事務費	約	5 百万円

・管理経費 約 125 百万円

(1)土地賃借料	約	14 百万円
(2)屋上借上料	約	8 百万円
(3)管理費	約	22 百万円
(4)施設利用管理負担	約	17 百万円
(5)駐車場利用料	約	2 百万円
(6)指定管理料	約	62 百万円

5. ふくふくこども館専用 キャラクターの製作



6. 利用者 UP への工夫

- ①毎月、講師等をお招きし様々なイベントを開催
- ②「ふくっこ通信」機関紙を作成し配布、web での公開



- ③交流スペースの展示ギャラリーにて市内保育園、幼稚園等で作成した作品を展示



7.まとめ

「ふくふく子ども館」は取手市でいうと「ウェルネスプラザ・キッズルーム」のような施設である。

現場を視察すると開館前から並んで待っている親子がおり多くの子どもで賑わっていた。

取手市のキッズルームと比較してみると以下のようなになる

①施設の規模：

ふくふく子ども館は駅ビルの最上階フロアと屋上を借りておりかなり広く感じた。

②市内保育園等の製作作品の展示：

当日もこの作品を見にくる親御さんがいて利用者UPに繋がっていると感じた。

③季節にあったイベントを展開：

講師等をお招きし家族で楽しめるイベントや子どもたち向けに製作教室などを展開していた。その他にも親御さん向けに子どもの発達教室なども展開していた。

④機関紙の発行 web 上での公開

この機関紙「ふくっこ通信」をブログなどで公開し参加を呼び掛けている親御さんもいた。

以上のように施設規模などにおいては人口や予算の差があるので仕方がない事ではあるが低予算で利用者UPに繋げる工夫を講じており正に利用者UPに繋がっていた。

そして、委託業者の方から施設の様々な説明を受けたが物凄く熱意を感じた。最近では市外利用者も増加の傾向にあり、正に下関市を盛り上げる政策拠点になりつつある。

今回の視察を通して取手市もまだまだやらなければならない事があると感じた。

まったく同じにとは行かないが今後は、下関市を参考にし、取手市独自の工夫を講じていければと思う。

取手市議会会派創生会代表 山野井 隆 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 竹原大蔵

1 視察日

平成30年7月20日（金）

2 視察先

福岡県春日市役所

3 調査項目

コミュニティ・スクールについて

4 視察内容

春日市立小学校数12、中学校数6、児童数7,438名、生徒数3,583名。児童生徒数はほぼ横ばい。学力、体力は全国平均より上、18校中17校が2学期制。教職員は近隣4市1町内で異動。不登校課題あり。

春日市自治会数35、1,041世帯、加入率76.7%。どの自治会でも単独で諸行事を行える規模。役員任期は2年2期が一般的、中学校ブロック単位で活動をしている。各自治会にまちづくり交付金として交付。

春日市は九州・沖縄では沖縄県那覇市に次ぐ2番目に人口密度の高いまち（春日市面積14.15㎡、人口密度7,989㎡）で、「住みやすさ」の市民意識調査では経年高い評価（94.2%）を得ている。

平均年齢42.42歳と若い世代が多く、自治会を中心として地域の行事や活動が活発。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）とは、学校の運営に地域の皆さんの声を活かすとともに、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たしながら、共育（共に育てる）を進める新しい仕組み。また、この制度により子どもたちが育つ地域基盤がつくられている。平成17年度に春日北小学校、日の出小学校、春日北中学校がコミュニティ・スクールに移行したのを皮切りに、順次導入が進み、平成22年4月から、すべての小中学校がコミュニティ・スクールに。

春日市のコミュニティ・スクールを導入することにより、地域と学校が同じベクトルを持ち、同じ目標に向かうことができるため、地域と学校が一体となり役割分担をしながら、それぞれが主体的に取り組んでいる。

学校運営協議会で話し合い決定したことを実践するため、各学校では推進部となる実働組織を置いている。

委員は、学校運営協議会委員、教職員代表、保護者代表、地域代表、教育委

員会職員などで構成。

導入のきっかけは、①学校：いじめ、不登校問題、教員の多忙化、②家庭：無関心、過干渉、核家族化、③地域：規範意識の低下、性犯罪などの問題があり、子どもたちの居場所づくりを含め、社会総がかりでの教育の実現をするべきとの考えから。結果、社会性・市民性の向上の他、学校と地域との関係性の向上や学校の活性化、学力の向上等にも効果を挙げている。

今後、更に効果を発揮するためには、導入の目的、仕組、内容などを地域の皆さんに十分に理解していただくことが重要としている。

以上 コミュニティ・スクール先進地の福岡県春日市視察報告とします。

茨城県取手市議会会派「創生会」行政視察研修行程表

○7月18日（水）

JL373

取手駅……品川駅……羽田空港……北九州空港……行橋市視察……ホテル
7：38 発 8：51 発 10：15 発 11：50 着 13：30～15：30 18：00
着予定

・福岡県行橋市議会事務局

住所：福岡県行橋市中央1-1-1

電話：0930-25-9633（議会事務局直通）

・研修事項

○行橋市図書館等複合施設整備事業について

- ・これまでの経過や実施事業
- ・事業経費
- ・今後の予定
- ・周辺整備箇所現地調査

【宿 泊】

川棚グランドホテル

住所：山口県下関市豊浦町川棚4912-1

電話：083-774-1111

○7月19日（木）

ホテル……………下関市視察……………ホテル
9：00 発 10：00～11：55 17：00 着

- ・山口県下関市「ふくふくこども館」
住所：山口県下関市竹崎町4-3-3 JR下関駅ビル3階
電話：083-227-2581
- ・研修事項
○次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」について
 - ・設置及び維持経費
 - ・目的
 - ・利用者数と利用者の声
 - ・設置効果と今後の課題

【宿 泊】

ホテルクラウンヒルズ小倉
住所 福岡県北九州市小倉北区紺屋町8-5
電話 093-521-0109

○7月20日（金）

JL318

ホテル……………春日市視察……………福岡空港……………羽田空港……………品川駅……………取手
駅
8：30 10：00～11：55 15：00 発 16：40 着 17：10 発 17：49 発
18：51 着

- ・福岡県春日市役所
住所：福岡県春日市原町3-1-5
電話：092-584-1113（議会事務局直通）
- ・研修事項
○コミュニティ・スクールについて
 - ・事業目的及び事業経費
 - ・これまでの経過と今後の事業展開
 - ・関係者の声